

2006 年度

科目名 心理学実験 B	対象学科・学年 人間人社 2 回生	担当者 井上 徹 田沢 晶子
授業テーマ 「心」を科学的に捉える。		
授業の概要と目標 さまざまな心理学基礎実験を通して、心理学における基本的な実験の方法、実験の進め方、結果の処理及び結果の記述の仕方などを学習する。「心」を科学的に捉えることが目標である。受講者は互いに実験者および被験者になる。また一般の学生にも被験者になってもらい実験を行う。		
評価方法 各課題について提出するレポート（80％）＋ 出席状況（20％） 授業へ取り組む姿勢、理解への意欲度、仲間への貢献度も考慮します。		
テキスト 実験とテスト＝心理学の基礎（実習編）	著者 心理実験指導研究会	出版社 培風館
参考書 実験とテスト＝心理学の基礎（解説編）	著者 心理実験指導研究会	出版社 培風館
授業スケジュール・内容 3－4名をひとつの班とする。班として各実験課題に取り組み、各自でレポートを作成し、結果を発表する。 1つの実験課題は、3週間に1つの割合で実験を行い、レポートを作成・提出（4週目）する。 1週目 実験の概要と背景の説明、実験上の注意点説明、仲間内での練習試行など 2週目 実験データの収集、集計・分析方法の指導 3週目 結果分析、レポートへのまとめの指導 4週目 次の実験の概要説明、実験上の注意点説明、仲間内での練習試行など （同時に、各自が作成した前回実験のレポートを提出する） - 各実験課題は、次の通りである。 （1）概念学習 概念がどのように形成されていくのか、連合説と仮説検証説に立った仮説を実験を通して検討する。 （2）対連合学習 対連合的中予言法を用いて、有意味語と無意味語に新しい連合を形成させる。 その過程が、漸増的か悉無的かを検討する。 （3）ストループ効果（認知的葛藤） サーストンのSCWITを参考に刺激カードを用意し、カードに対する反応時間から、認知的葛藤の有無を考察する。 （4）要求水準 要求水準が作業の成功・失敗、満足度によってどのように変動するかを検討する。 要求水準を測定する作業材料はそれぞれに工夫する。 【受講の条件】 1 回生配当の「統計学 A および B」また「心理学研究法」を履修済みであること。 もしくはこれらの科目を同時に受講していること。 【人数制限】 実験器具の数に限りがあるため、受講定員を40名とします。心理・カウンセリングコースの学生を優先し、人数に余裕があれば、他のコースの学生も受け入れます。希望者が定員をオーバーする場合は、抽選します。受講希望者は、第1回目の授業に必ず出てください。その場で抽選します。1回目の授業を連絡なく欠席した場合は、後で希望しても履修登録はできません。		